

安全で安心していただける商品をお届けします

シマダヤグループでは、お客様に安全で安心していただける商品作りをしています。また、お客様からのご意見も商品作りに生かしています。



シマダヤグループの HACCP について

シマダヤ商品の安全確保の基盤となっているのが「シマダヤHACCP」です。Codexのガイドラインに基づいたHACCPに、独自の認定システムを採用しています。シマダヤグループの工場では、おのおのがHACCPシステムを構築、運用しています。その中には、「工場自

らが定期的に自身の活動を振り返ること」も含まれ、継続的な改善が行われる仕組みとなっています。また、年1回、シマダヤ品質保証部がシステムの監査(維持審査)を実施し、これらの活動をより確かなものとしています。

品質とブランドの強化にむけて

宮城シマダヤはお客様に安全で安心していただける商品をお届けするために、シマダヤが定めた「シマダヤHACCP」システムの認定工場として、製品作りを行っています。宮城シマダヤ古川工場はLL麺・セミLL麺・生冷し中華麺・冷凍麺を製造しています。異なる温度帯、異なる工程、それぞれにシステムを作り上げ、適切な運用および継続的な改善をするために毎月HACCP委員会を開催しています。品質保証部による定期的な監査などの指導を

受け、システム運用をより確かなものとしています。その成果として、2012年2月に所轄の大崎保健所より衛生管理の模範工場として推薦を受け、「みやぎ食品衛生自主管理優良施設」として、宮城県知事より褒状を頂きました。



システム運用の管理記録表管理風景

グループ会社で築くお客様への安全・安心

関東チルド工場安心部会は、グループ会社各工場内で培われた5Sを参加工場で共有し、人材交流および育成の場として活用するため、工場の従業員により発足しました。東京シマダヤ、高砂食品、群麺センター、エス・エス・デリカおよび丸中製麺で構成されています。従来、工場の製造現場で働く従業員は、他の工場を見る機会はあまりありませんでした。そこで、同様の製品を作っている他の工場の現場を見ることで、自社と異なる点を発見してもらうことを主な目的として活動を開始しました。また、工場点検を行うことで、参加した工場の5Sレベルを向上させます。これからもお客様

に安心してお召し上がりいただける商品を作る工場のあるべき姿を追い求めて活動していきます。



関東チルド工場安心部会の模様



放射性物質に対する考え方について

2011年3月11日に発生した東日本大震災および福島第一原子力発電所事故の影響を受け、シマダヤにも、放射性物質に対して心配されるお客様からのお問い合わせが多くなっています。

商品に使用している原材料(製造使用水を含む)につ

いては、シマダヤまたは原材料メーカーにて安全性を確認しています。シマダヤでは、安全性が確保された原材料を使用し製品を製造しており、加えて、商品の放射性物質検査(NaI(Tl)シンチレーションスペクトロメーター)による安全性確認を行っています。

お問い合わせへの対応について

お客様相談室には、お客様からの製造使用水や原材料の産地、工場の所在地に関するお問い合わせが多くなりました。

「水の検査をしていますか」、「離乳食で使いたい」、「子どもに食べさせても大丈夫ですか」、「小麦粉は、どこの産地のものを使用していますか」、「国産小麦粉使用とありますが、地域はどこですか」、「製品の検査はしていますか」など、放射性物質を心配しての声が寄せられています。お客様のお問い合わせに対して、関係部署

の情報をもとに、迅速・正確にお答えしています。

お客様相談室では、お客様の声を社内および工場に毎日発信するとともに、お客様がお知りになりたい情報を的確にお伝えできるように、常に情報を収集し、対応させていただいています。



ホームページ、モバイルサイトでの情報発信について

シマダヤのホームページでは新たに、商品ごとの「栄養成分値」、「含有アレルギー物質」を閲覧できるようになりました。

また、購入の際に売り場から携帯電話で工場の所在地を問い合わせられるお客様が多くなりました。従来、ホームページに「工場所在地」を掲載していましたが、このたび、携帯電話のモバイルサイトで「工場所在地」

を見られるようにしました。

モバイルサイトへは、ホームページに掲載しているQRコードを読み取る、または携帯電話で「シマダヤ」と検索すると「めんシマダヤ<味>なウェブ」が表示されます。そこで「生産体制・工場所在地」をクリックすると、「製造所固有記号一覧」と「製造所固有記号表示位置」の項目を見ることができます。ぜひ、ご利用ください。

携帯電話のモバイルサイトで「工場所在地」を確認できます

当社ホームページ トップ画面よりQRコードを携帯電話で読み取りモバイルサイトへ



または、携帯電話で「シマダヤ」と検索

※スマートフォンには対応していません。

シマダヤグループ全体で考え、取り組んでいます

シマダヤグループでは、従業員が「おいしい笑顔」を届けられるよう、一丸となってさまざまな取り組みを進めています。グループで実施している取り組みの内容をご報告します。



グループで経営方針を共有し同じ方向に進んでいます

グループ幹部会を実施しています

シマダヤでは、グループ経営の推進を目的とした、グループ幹部会を開催しています。会にはシマダヤ幹部とグループ会社幹部が出席、経営方針を共有し、ベクトルを合わせる重要な場となっています。2012年度は、新中期経営計画スタートの年であることから、前中期経営計画「シマダヤ NEW STAGE 80」のレビューと新中期経営計画の内容について共有しました。

また、同じメンバーで毎月幹部会を開催し、各部門・工場の業務について進捗を共有しています。



毎月開催している幹部会の模様

グループ幹部社員研修を実施しています

グループ幹部社員研修は、グループ各社の幹部社員がシマダヤグループ全体を知り、進むべき方向を共有することによって、「シマダヤブランド」を強化する目的でスタートしました。

現在は、第二期生が研修を受講しており、約1年かけシマダヤグループ全8社が持ち回りで研修の企画・実施を行っています。研修では、各社の講義や従業員ヒア

リングによる実態把握と、その結果を踏まえた各社の改善点抽出と対策提案を行っています。

研修を通してメンバーは、グループ各社への理解を深めるとともに、個々の課題発見力の強化や自社の改革意識の向上、さらなるグループ間の結束力アップにつなげています。



中部シマダヤで開催された研修の参加者



自己改革を進めます

幹部社員研修はグループ全体が同じベクトルで進んでいくために、各工場の奥まで入り込んで、経営状況・人事制度・教育・働く環境に至るまで現状を把握します。その中で、強み・弱みを的確に抽出できるように学び、グループ全体が一つになれるとともに、その一員である私も自己改革を進められるように目指していきます。

中部シマダヤ株式会社
次長 高木 良三



グループ全体で災害対策を見直しました

事業所に備蓄品や設備を設置しました

2011年3月11日に発生した東日本大震災を踏まえ、今後起こりうる大地震に備えて、災害対策を見直しました。

まず、災害時に公共交通インフラが停止し、帰宅困難になった場合などを想定し、各事業所に3日分の水と食料を備蓄しました。その他に、事業所ごとにガソリン

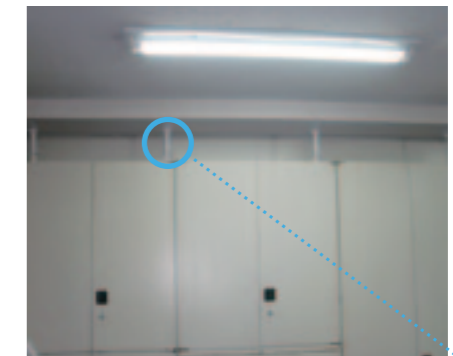
携行缶、救急箱を用意し、貯水槽がない事業所にはトイレ用凝固剤などをそろえました。

また、什器類の転倒を防止するために、転倒防止伸縮棒を設置しました。

災害時の従業員の安否確認については、震度5強以上の地震が発生すると、メールにて従業員と家族の安否が確認できる、安否確認システムを導入しました。また、災害時の通信手段を確保するために、停電時でも使用可能なアナログ電話機をグループ全事業所に設置しました。

今後も、継続して災害対策の見直しを進めていきます。

●安否確認システム



転倒防止伸縮棒

工場の防災対策も見直ししています

災害発生時、人的被害を最低限に抑えること、早期に生産を復旧することを目的に、東日本大震災で被災した工場、機械メーカーの見解、対策を参考にして工場での防災対策の見直しを実施しました。

実施項目は、災害時対応手順の策定で、災害発生直後の初動行動や避難開始のルール化、避難通路を明確にし、避難訓練も年1回以上実施することを取り決めました。さらに、災害時の安否確認のために緊急連絡先を共有しました。

製造ラインについては、復旧の際の再稼働の手順を

明確にしました。また、機械設備の脚設置位置にアイマーク(印)を付け、設備が動いた際に早期復旧できるようにしました。さらに、大規模な地震が発生した際に、機械の横滑りや転倒防止のため、取り付け可能な機械にはアンカー(固定治具)を打ちました。

以上の項目を、グループ会社の工場と技術担当者会議などで共有し、未実施項目については継続して計画を示し取り組みを推進しています。



転倒防止用のアンカー

子どもたちにも麺の良さを伝えていきます

シマダヤグループでは、将来を担う子どもたちに、麺を通して食品の大切さを知ってもらいたいと考えています。

麺について楽しく教えています

麺作り教室を開催しています

2011年は依頼のあった渋谷区の小学校3校(神宮前小学校児童・先生・保護者20名、山谷小学校6年生32名、長谷戸小学校親子25組50名)に対して「麺作り教室」を開催しました。

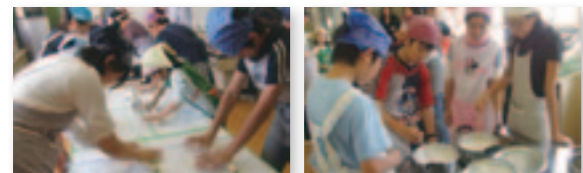
「麺作り教室」では、手打ちうどんを作ってもらうなかで、おいしいうどんとは何かを考えてもらいます。

手打ちうどん作りを始める前に、どのようにしたらおいしいうどんができるか説明をすると、みんな真剣に話を聞いています。手打ちうどん作りが始まるとおいしいうどんを作ろうと夢中で取り組み、大変だったけれどおいしいうどんが作れたことに、ほとんどの子どもたちは感激します。

「麺作り教室」を通して

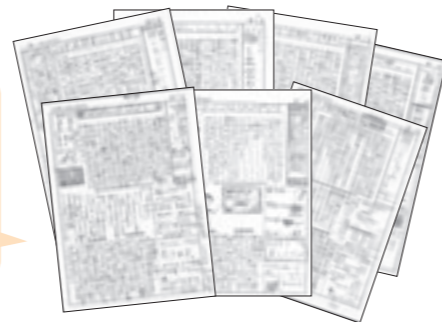
- ①もの作りの楽しさ
- ②体験することの大切さ
- ③真剣になることの大切さ

を、学んでもらえればと思っています。



山谷小学校の麺作り教室の様子

今回、山谷小学校6年生32名がそれぞれ「麺作り教室」についての新聞を作ってくれました。



児童が作成した新聞

子どもたちの笑顔がうれしかったです

今回、山谷小学校の麺作り教室に参加し、とても有意義な時間を過ごすことができました。前日までは「社会貢献」が目的で、麺について小学生にどう教えればわかりやすいか思案していました。しかし、子どもたちが楽しそうにうどんを作る姿を目にすると、当初の目的ではなく子どもたちの「笑顔」をもっと見たいという気持ちが湧いてきました。私も汗をかきながら小麦粉を練り、子どもたちとおいしいうどんを試食しました。このような活動を通じて、微力ながらも「おいしい笑顔」を届けられたと強く実感することができました。

シマダヤ株式会社 家庭用冷凍営業部
加藤 幹雄



「めんのみみつ」を知っていますか？

シマダヤは、2012年に学習まんが「めんのみみつ」を制作しました。30,000部を発行し、全国の小学校23,500校ならびに公立図書館3,000館に寄贈しました。

この本を通して、子どもたちには麺について多くの知識を身につけてもらい、麺に興味を持ってもら

いたいと考えています。麺の素晴らしさを、全国700万人の小学生に知ってもらえたらうれしいと思っています。また、シマダヤの従業員にも、自社の歴史を振り返る良い教材になったと考えています。



学習まんが「めんのみみつ」

社会で存在を認めてもらえる企業を目指します

シマダヤグループでは、事業所や工場のある地域の他、広く社会との関係を大切にしています。

地域社会と共に活動しています

シマダヤは恵比寿の街と共にあります

東京「恵比寿」ラーメンブランドは、おかげさまで今年発売26年目を迎えます。東京「恵比寿」ラーメンが生まれ育った恵比寿の街をより活性化できたらという想いから、発売25周年を機に「恵比寿ラーメンマップ」を作成しました。恵比寿にラーメン店を構え、作成にご協力いただいた地域の皆様に感謝申し上げます。恵比寿

にお越しの際は、ぜひ「恵比寿ラーメンマップ」に掲載されているラーメン店に足をお運びいただき、いつの時代も愛されるラーメンを召し上がってみてください。



恵比寿ラーメンマップ

震災に負けず「一日一麺」で頑張りましょう・・・

宮城シマダヤは東北地方の沿岸部被災地の皆様に笑顔で頑張っていたため、震災発生一週間後から2012年6月までの間に炊き出しを延べ11回実施してきました。地域貢献、地域密着を掲げ、休日返上の社員ボランティアを毎回12名ほど募り、宮城シマダヤの提唱する「一日一麺」運動を進めてきました。宮城県内にとどまらず遠くは岩手県の山田町、被災の規模が大きかった南三陸町にも伺いました。また、仮設住宅最大戸

数の石巻開成地区では、炊き出しの他、つゆ付の「長持ち麺」10食を各戸に配布しました。どこに行っても大歓迎で感謝され、逆にこちらが元気をもらって帰ってきました。



岩手県山田町での炊き出しの様子

国産小麦粉を使用した商品の開発・販売に取り組んでいます

FOOD ACTION NIPPON推進本部は、日本の食糧自給率向上を通じて、日本の食と安全と豊かさを未来の子どもたちへ引き継いでいくために、精力的に活動していくことを宣言しています。シマダヤはこれに賛同して、うどんを中心に国産小麦粉を使用し、推奨パートナーとして参加しています。これからも全社で国産小麦粉を使用した商品の開発・販売に取り組んでいきます。

特定非営利活動法人 国連WFP協会を支援しています

シマダヤは、飢餓と貧困の撲滅を使命に活動する国連の食糧支援機関WFP 国連世界食糧計画の活動に賛同し、その公式支援窓口である国連WFP協会を評議員として支援しています。

食を取り扱う企業として、持続的な支援活動を行うため積極的に情報発信を行いますので、今後多くの従業員が参加してくれることを期待します。